

第1 事業の概要

令和元年度は、一般財団法人としての7年目であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員として委嘱した14名については、「協会創立60周年記念事業実施計画」で指定した研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、各地方(水戸、伊勢、岐阜、名古屋等)において地域の特性に応じた定例研究会を行った。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、平成30年度に引き続き「日本学講座」を実施した。

「日本学講座」は、「日本の発展に尽くした人々」及び「歴史上の重要な事案」をテーマに、下記の通り実施した。

日時	発表者	演題
第12回 R元.6.8(土) 14:00~16:00	元防衛研究所 戦史部主任研究官 永江太郎	「改めて問う大東亜戦争の開戦と終戦の決断～東條首相と阿南陸相の責任について～」

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：17編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：86編	『日本』発表論文
定例研究会	開催数35回 参加者：353名
公開研究会	開催数 1回 参加者：101名

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

令和元年度は、東京講演会(第16回)を令和元年11月16日(土)、AP市ヶ谷において、「天皇のしらす国の役割」と題して(講師 東京大学名誉教授 矢作直樹)、また関西講演会(第17回)は同年10月6日(日)、国民会館において「“令和の御大礼”の意義—即位礼と大嘗祭、伝統の核心—」と題して(講師 皇學館大学前学長 清水 潔)開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行っているが、第13回目となる令和元年度は、平成30年9月2日(日)、福井県立こども歴史文化館において「和紙の世界と古文書学—越前和紙を手がかりとして—」を主題に、研究発表(「中世古文書料紙研究の現在」 皇學館大学教授 岡野友彦、奉書と檀紙」 撰南大学名誉教授 上島有、「越前五箇大瀧寺(大瀧神社)の創建とその軌跡」 大瀧神社総代 石川満夫)及び相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第69巻第1号に掲載した。)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために2泊3日の合宿形式で実施しているが、令和元年度も「わが国と日本人のあり方を考える」をテーマに令和元年8月23日(金)～25日(日)、奈良・大阪で実施した。

内容は、大学教授等各界の専門家による講義、講話をはじめ参加者の相互討議や意見交換、史跡見学等により日本の歴史や先哲について理解が深まるようきめ細かい指導を実施した。

(4) 開催結果

定例講演会(東京・関西)	参加者：141名
藝林会学術研究大会	参加者：48名
講習会	参加者：52名

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会、講習会の開催は、ホームページを始め、その都度、新聞(『産経新聞』)及び月刊誌(『正論』)で、会員以外にも広く参加を呼びかける広告を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。令和元年度は、第68巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。令和元年度は第69巻第4号～第70巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施したほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

- ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。
- イ、『「日本」巻頭言集』の刊行準備を実施した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	3 1 5 頁	3 5 0 部	年 2 回刊行
日 本	5 2 頁	8 5 0 部	年 1 2 回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、年に4回新聞広告（『産経新聞』）等を行った。